

## どのような機種があるの？

### ■ 感知方法

#### 煙 式

煙が住宅用火災警報器に入ると音や音声で火災の発生を知らせます。

※寝室や階段に**設置が義務付け**られているのは**煙式**です。



#### 熱 式

住宅用火災警報器の周辺温度が一定の温度に達すると音や音声で火災の発生を知らせます。

※台所や車庫などで、大量の煙や湯気が対流する場所等に適しています。



#### 煙式と熱式の違い

火災の発見をいち早く知るためには、**煙式**の方が有効です。

台所も原則煙式ですが、台所が狭い場合などで、どの場所も煙又は蒸気が滞留するときは、熱式の住宅用火災警報器を選んでください。



煙式は煙が出た段階で警報音が鳴り出すのに対し、熱式は炎が上がってからでないと警報音は鳴りません！

## ■電源について

電池を使うタイプや、家庭用電源を使いコンセントへ差し込むタイプがあります。現在、市販の住宅用火災警報器は、リチウムイオンタイプ(電池寿命 10 年)が主流になっています。

<p><b>電池を使うタイプ</b></p> <p>電池の交換 電池切れ警報(音またはランプ)が出たら、電池を交換します。</p> 	<p><b>家庭用電源(100V)を使うタイプ</b></p> <p>コンセントへ差し込むもの コンセントがあれば、比較的簡単に設置できます。</p> 
---	---

## ■警報には「単独型」と「連動型」があります

<p><b>単独型</b></p> <p>火災を感じた火災警報器だけが警報を発します。</p> <p>例えば、寝室の火災警報器が火災を感知すると、この火災警報器だけが警報を発します。</p> 	<p><b>連動型</b></p> <p>火災を感じた火災警報器だけでなく、接続されているすべての火災警報器が火災信号を受け警報を発します。</p> <p>居室の火災警報器が火災を感知すると、寝室や階段のすべての火災警報器が警報を発し、例えば、耳の遠いお年寄りの部屋での火災も他の部屋の若い人が気付いて救出することができます。</p> 
---	---